

# 交流館ニュース

くぼらぼん

2010.

04月号

Vol. 01

情報便のタイトルが  
変わりました!



発行: 宗像市市民活動交流館(メイトム宗像) (〒811-3437) 福岡県宗像市久原180  
電話: 0940(36)0311 FAX: 0940(37)4101 E・メール: meitomu@city.munakata.fukuoka.np



世代を超え、国境を越え、団体や組織の垣根をこえて開かれた3月13日の「第一回市民活動交流まつり」。会場の市民活動交流館には3500人ももの市民が参加して多彩なイベントや展示、交流行事などが行われ、歓声と笑顔が弾けました。

実行委員会はむなかた市民フォーラムを中核とする市民手づくりで全体を企画、一般公募委員5人も加わりました。たとえば開会式から開会イベントの寸劇「コミセンってなあに?」さらにお楽しみ抽選会まですべて取り仕切ったのは子どもたちでした。

姉妹都市の韓国・金海市からは親善大使など6人の女性がチマチョゴリの正装で参加。金海コーナーは韓国料理やチマチョゴリの試着など交流ムードいっぱい。これもむなかた翼の会が手弁当で企画した成果でした。

手づくり、輪づくり、まちづくり  
はじけました! 交流まつり

大きな収穫はユリックスで開催の市民学習ネットワークとの連携がスタートしたことです。両会場を結ぶスタンプラリーもあって、当日は交流館からユリックスへ、ユリックスから交流館へという双方向の人の流れも多く、二つのイベントによる相乗効果が生まれました。

この日、参加した市民活動団体は43団体、これに13地区のコミュニティもすべて加わり、祭りのタイトル「つながれ、広がれ、みんなの輪」そのままの光景が展開。一時は館内や周辺広場などに人があふれるほどの盛り上がりでした。実行委員会はこれをスタートとして、さらに市民の交流行事を積み重ねていくことにしています。交流まつりにかかわってこられた関係者のみなさん、当日足を運んでくださった市民の方々、ありがとうございました。



# 英語の絵本がどっさり届きました えほんのへや

在福岡アメリカ領事館から宗像市へ英語の絵本215冊が寄贈され2月26日にえほんのへやで、贈呈式がありました。

贈呈式には、在福岡アメリカ領事館の広報担当領事トレイシー・テイラーさんら3人と宗像市からは市長、教育長、交流館館長と市内の幼稚園児約30人が出席しました。贈呈式は、テイラー領事の挨拶で始まりましたが、領事はまず出席した園児に対し「あとで絵本を読んであげますから少し待っててくださいね」という言葉かけを行い、緊張気味だった会場の雰囲気が一気に和やかに。「多くのアメリカ国民の真心が詰まった絵本を通して市民レベルでの交流を深めたい」と挨拶する領事に対し、「子どもたちが絵本を通してアメリカの文化や英語に触れることで国際交流の輪を広げたい」と谷井市長が応えました。

園児の代表に手渡された絵本は、領事が215冊の中から選んだ「はらぺこあおむし」で、日本の子どもたちにもおなじみの絵本です。贈呈式の最後に領事が英語で読み聞かせのプレゼントを行い、園児ばかりでなく会場にいた大人たちも熱心に聞き入っていました。



「はらぺこあおむし」の英語の読み聞かせに目をまんまるくして聞いていた園児たちですが、領事がツウといわれたとき、指を2本立てて隣の友達と確認しあうなど楽しんだ様子でした。

会場で贈呈式の様子を見守っていたえほんのへやの利用者は、「領事さんの『ここにある絵本は、お金を出して買ったものではなく、一冊々にアメリカ人の温かい心が詰まっています』という言葉が印象に残りました。」と話してくれました。

寄贈された絵本は、えほんのへやの国際交流コーナーで展示したり、市内の小中学校の英語教育の教材として活用していく予定です。えほんのへやで展示する絵本については、現在貸し出しができませんが、市民図書館では、今後貸し出しができるように準備をすすめています。



お花をどうぞ



市長さん読んで

## ～『ふらこっこ』交流室から～

### 交流館まつり編

まつり当日は、館内の様子がいつもとは少し異なり、にぎやかな雰囲気子どもたちもびっくりしていたようです。

『ふらこっこ』の交流室の中でもスポットタイムを“まつりスペシャル”として楽しみました。わらべうたあそびや親子あそび...。おはなしは、パネルシアター『カレーライス』『北風と太陽』の午前・午後の2回開催しました。皆さん楽しんでいただけましたか？



パネルシアターでのコマ



## 第7回「日本の次世代リーダー養成塾」塾生募集

(募集期間：4月7日～5月7日)

2004年から毎年グローバルアリーナで開催されている高校生のサマースクール「日本の次世代リーダー養成塾」。今年も7月28日～8月10日の2週間開催されます。全国の180名の高校生が、寝食を共にし、日本のみならず世界で各界を代表する方々の講義を受講します。塾生募集についての詳細は、日本の次世代リーダー養成塾ホームページ <http://www.leaderjuku.jp> をご覧ください。また、交流館にも、塾生募集パンフレットを用意しております。

参考図書：「17歳からの死生観 高校生との問答集」山折哲雄：著 (毎日新聞社発行)

この塾で毎年講師をされている宗教学者の山折哲雄さんが、6年間のリーダー塾での講義および高校生との質疑応答をまとめた本です。リーダー養成塾を深く知っていただくための最適な1冊です。是非ご覧ください。

## むなかた市民学習ネットワーク

### 2010年

## 新有志指導者活動開始

広報4月1日号で新有志指導者18人が、募集活動を開始しました。音楽、手芸、フラダンスなど新しい項目も増えています。

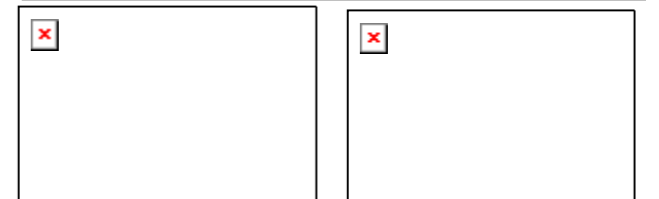
趣味・お稽古ごとからスポーツ・語学まで30余りの学級を募集中

申し込み締め切り4月15日 (木) 必着

お申し込み・お問い合わせはインフォメーション横のむなかた市民学習ネットワーク事務局へ  
(36)3721 Fax(36)3732

♡ ふれあいプラザ展示コーナー ♡  
学級の作品を展示中  
4月は、貝アート ししゅう など

第25回学習発表会  
3月13・14・20日開催  
多くの参加者でにぎわいました



## 宗像市福祉ボランティア活動連絡協議会

(通称:ボラ連)

### 対面朗読 ひばり

私たちは、視覚に障害のある方を対象に、対面で本や資料・新聞などその方の希望されるものを朗読する活動をしています。活動の場所はメイトムや公民館・利用者のご自宅などです。

本を読むことが大好きな仲間が集まっています。熱心に聴き、喜んでくださる利用者と共に、楽しみながら読んでいます。知らないことを教えていただくことも度々です。また、月に2回、むなかた苑に行き紙芝居をやったり、絵本を読んだりしています。他に朗読劇「この子たちの夏」を小学校やコミュニティセンターなどで上演しています。

ただいま新しい会員を募集しています。朗読劇にだけ参加される方もOKです。経験、年齢は問いません。入会については宗像市ボランティアセンターまでお問い合わせください

TEL 37 - 4100

## ユリックスこ～な～

宗像ユリックス 24 時間 E K I D E N をご存じですか。宗像ユリックス芝生広場周回コースを会場に、毎年 4 月下旬に開催する駅伝大会で、今年で 16 回目を数えます。約 100 チームが参加する人気イベントで、各チームが一本のタスキを 24 時間つなぐ大会です。今年も 4 月 24 日(土)13 時～25 日(日)13 時に開催します。

1 周約 850m のコースを、昨年優勝チームは 502 周、426.7 ㎞ 走破しました。この距離は宗像から神戸までの距離に該当します。タスキをつなげば心がつながる。ぜひ感動の 24 時間 E K I D E N を見に来てください。



## あなたが暮らすまちへの思いを形にしてみませんか

私たちのまち宗像は古代より守りつがれた文化の香り高い地域であり、四季を愛でる美しい自然があります。そして毎日が安心して子育てや住環境、子どもから高齢者まで家族みんながいそいそ過ごせる安心で元気なまちづくりを進める人たちがいます。

気持ちの良いこの季節に、日頃から考えていることを実行するために、思い切って一歩踏み出してみましょう。元気な市民活動・ボランティア活動に参加して、ひとの輪をひろげていきましょう。無理をすることなく、自分のペースでゆっくり活動すれば、きっと楽しみづくりにつながるはずです。今年も「元気な市民と、元気なまちづくり」をすすめるための、

### 人づくりでまちづくり事業

を募集します。

申請期間：3/29(月)～4/22(木)

申請方法：4/22(木)必着で申請書類を提出  
募集要項と申請書類

- \* 市役所本館 1 階・情報コーナー
- \* 市民活動交流館
- \* 各地区コミュニティセンター窓口
- \* 宗像市ホームページ(市民活動から)

問い合わせは市民活動交流室

TEL 0940 36 - 0311

## やって良かった！ 盛りだくさんの報告が続々

人づくりでまちづくり事業と市民サービス協働化提案事業、元気な島づくり事業の報告会が3月26日、市民活動交流館で開かれました。人まち12団体、協働化8団体、元気な島づくり3団体が集まり、それぞれに取り組みの現状や成果、これからの課題などを報告しました。

中でも、人まち事業ではすべての団体がこの報告会で3年間の事業を終了するとあって「この間苦労はあったが、やってよかった」「この制度に感謝したい」「市民の貴重な税金を使わせていただいた。これからは少ない資金でも頑張りたい」といった言葉で報告を締めくくる団体が相次ぎました。

意見交換では「この事業をコミュニティビジネスに結び付けたい」「市民協働でやった場合の(行政とは違う)効果測定をやるべきだ」など、これからの見据えた提言などが出されました。

市民の手による新しいまちづくりのための“装置”としての3事業には、これまで人まち147件協働化20件 元気な島づくり21件が名乗りを上げて多彩な取り組みを展開してきました。宗像のまちづくりのすそ野が着実に広がっていることを示しています。

